

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	日本事情 I	
科目基礎情報							
科目番号		0014		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		国際創造工学科 共通1年		対象学年		1	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材		参考書：『図説地理資料世界の諸地域NOW』帝国書院 / 『詳解現代地図』二宮書店					
担当教員		未 定					
到達目標							
現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、日本で主体的に生活していくための自覚と資質を養う。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等の活動の現在の地域的特性について自らの理解を表明できる。		農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等の活動の現在の地域的特性について正しく理解できる。		農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等の活動の現在の地域的特性について正しく理解できない。	
評価項目2		世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、地理的観点から自らの理解を表明できる。		世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、地理的観点から正しく理解できる。		世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、地理的観点から正しく理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (B)							
教育方法等							
概要		世界の人々の生活や文化に関する地域の特徴と共通の課題を理解させる。 世界各地の特色ある地域の学習を通じ、現代社会に生きる国際人としての教養と自覚を養う。					
授業の進め方・方法		成績の評価は、課題100%で行い、平均の成績が60点以上の者を合格とする。					
注意点		授業終了後にはノート等を見直し、復習しておくこと。 外国人留学生に対して開講する科目です。 集中講義で実施する。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	グローバル化する世界		球体としての地球		
		2週	グローバル化する世界		国家と領域について		
		3週	日本の地理		北海道		
		4週	日本の地理		東北地方		
		5週	日本の地理		関東地方		
		6週	日本の地理		東海地方		
		7週	日本の地理		近畿地方		
		8週	日本の地理		中国地方		
	2ndQ	9週	日本の地理		四国地方		
		10週	日本の地理		九州地方		
		11週	世界の気候（1）		気候の三要素		
		12週	世界の気候（2）		日本の気候		
		13週	世界の気候（3）		タイの気候		
		14週	茨城の地理		茨城の地理		
		15週	茨城の気候		茨城の気候		
		16週	前期の復習				
後期	3rdQ	1週	東アジア地誌（1）		アジア概観		
		2週	東アジア地誌（2）		中国		
		3週	東アジア地誌（3）		中国、台湾、朝鮮半島、モンゴル		
		4週	東南アジア地誌（1）		東南アジア概観		
		5週	東南アジア地誌（2）		東南アジア7カ国		
		6週	南アジア地誌、西アジア地誌		インド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュ、西アジア概観、トルコ、サウジアラビア等		
		7週	ヨーロッパ地誌（1）		ヨーロッパ概観		
		8週	ヨーロッパ地誌（2）		西ヨーロッパ諸国		
	4thQ	9週	ヨーロッパ地誌（3）		北西ヨーロッパ諸国、南ヨーロッパ諸国、東欧諸国、ロシア		
		10週	アフリカ地誌		アフリカ諸国		
		11週	北米地誌		北米概観、アメリカ合衆国、カナダ		
		12週	中南米地誌		中南米概観、メキシコ、ブラジル、アルゼンチン等		
		13週	オセアニア地誌		オセアニア概観、オーストラリア、ニュージーランド等		

	14週	タイと日本の比較	タイと日本の比較
	15週	タイと日本の比較	タイと日本の比較
	16週	プレゼンテーション	
評価割合			
	課題・プレゼンテーション	その他	合計
総合評価割合	100	0	100
基礎的能力	100	0	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0